

令和3年度 自己評価結果 公表シート

学校法人 長生学園 認定こども園 中島幼稚園わくわく保育園

【評価の目安】

4：できている 3：概ねできている 2：あまりできていない 1：まったくできていない

評価項目	内容	平均評価値
① 保育の計画性	1 指導計画に基づいて、子どもが主体的に関わりたくなるような環境構成をしている	3.4
	2 保育者の願いや意図を持って環境構成をしている	3.6
	3 子どもと共に四季の自然を五感で感じられるような、季節の変化に応じた環境構成をしている	3.8
	4 自分の保育について評価・反省を行い、次の日の保育に活かしている	3.3
	今年度の重点目標として、子どもの興味・関心・発達に合わせての環境構成を整えていくことに全職員が意識を高く持ち取り組んだ。特に園の特色である自然豊かな環境を活かせるように園庭に遊びのコーナーを設け五感の育みと共に、主体的に遊び込めるような環境設定を行うことができた。更に子どもたちの楽しむ姿、対話を大切に、育てほしい姿を重ねながら、私達の目指す保育へと研磨を積んでいきたい。	
② 保育のあり方・ 幼児の対応	5 保育者自身が子どもの遊びのおもしろさを感じ、楽しんでいる	3.9
	6 一人ひとりの姿をよく観察し、子どもの思いや考えを受け止め共感している	3.6
	7 興味関心に沿って遊びを変化させたり発展するよう援助している	3.5
	8 子どもが判断したり考えたりする機会を大切にしている。また乳児には、その姿から気持ちや思いを汲み取るようにしている	3.5
	9 自然との関わりや食育を大切にしている	3.8
	10 子どものことやクラスの環境構成について、クラス担任で話し合いを持ち、学年を超えて職員で情報共有している	3.5
子どもたちの声を第一に考え、思いを受け止める大切さを感じる日々であった。以上児クラスでは毎日の振り返りの時間で子どもたちの思いや、期待感をしっかりと受け止め次の日へ活かせるよう援助できた。未満児クラスでは一人ひとりの姿をよく観察し、コミュニケーションをとることで寄り添い関わる事ができた。又、クラス担任間での情報共有はどのクラスでも密にできたが、他クラスとの情報共有のやり方に今後はもう少し意識を向け、さらに関心を高めていく必要があることを感じた。		
③ 健康・安全	11 子どもたちの安心・安全に関する、危機管理の必要性と対応について理解している	3.5
	12 日頃から園内外の危険箇所・危険な遊び方に配慮している	3.6
	13 事故やケガが発生した場合は迅速に適切な処置を行っている	3.8
	14 感染症への対応については、マニュアルに基づき適切に対応・処理を行っている	3.7
	園外、ホール、保育室の各項目ごとの安全チェックを毎日欠かさず、各安全点検チェック表を用いて行っている。この毎日の当たり前の安全チェックがいかに大切か、そして重要性の高さを研修等で再確認し身を引き締めて行ってきた。看護師を中心にケガ、病気等に対応しマニュアルや報告書等で情報共有し危機管理体制も整えた上で子どもたちの安心・安全を第一と考え取り組むことができた。又、コロナ禍で感染症への対応もその状況に応じて引き続き取り組んでいきたい。	
④ 保育者の資質・ 能力	15 職務上の情報等の秘密を守秘する	4
	16 社会人としての常識をわきまえ行動している	3.6
	17 教職員全員で協調性を大切にし、ひとつのチームであることを意識している	3.7
	『守秘義務』や社会人としての常識的な行動などは当然高い値になるべき項目である。さらに教職員のチームワークについても常々気を付けて職員全体で取り組んでいる。今後も引き続き保育の質向上と自身の人間性を高めていけるよう心掛けていきたい。	
⑤ 保護者対応	18 連絡帳・電話・対面など、保護者に子どもの様子を的確に伝えるよう心掛けている	3.9
	19 保護者に寄り添い相談や要望をよく聞き、信頼関係を築くよう心掛けている	3.6
	20 保護者と保育者が子どもの育ちや活動などについて共有するため、わかりやすく情報提供することを心掛けている	3.9
	保護者の方との信頼関係は何より大切にしたいと日々心掛けている項目である。コロナ禍で園にお越しいただく機会が少ない中であつたが、子どもの成長の様子を保護者の方々と共有できるよう、対面ではもちろん様々なツールで伝える工夫をしてきた。	
⑥ 地域・自然・ 社会とのかかわり	21 地域の方と挨拶を交わしたり、関わりを持つよう努めている	3.5
	22 保幼小中連携の方針について共通理解をするように努めている	3.3
	23 子育て支援や園開放について内容を理解するよう努めている	3.4
	『子育て支援』とは『めだかひろば』だけのことではなく、もっと広い意味で『子育て世帯を支援する』ということであることを知り、この地域においてはその拠点がこの園であることをよく理解する必要がある。保幼小中連携については経験年数が少ない職員や年長組担任以外の理解が浅く低い点となったが、乳幼児期の教育は生涯にわたる人間形成の基礎を培う重要なものであることを今一度しっかり認識する必要がある。乳幼児期から、義務教育終了までの育ちを継げ一人ひとりの可能性を伸ばせるよう努めたい。	
⑦ 研修と研究	24 各種研修会・研究会には自分なりの課題を持って積極的に参加し、内容を園に還元するよう努めている	3.6
	今年度はZOOM研修が多く園内で集中して受講することができた。キャリアや立場に見合った研修を選択し、より専門性を深められるよう努めてきた。研修後は職員への報告を丁寧に行い、保育に活かしていくよう努めている。	

